

# 新規就農を目指す

## 井上洋平さんと語る

### よし！やったぞ！という達成感と

### 多くの出会いに感謝



幕別町忠類で新規就農を目指して  
研修中の井上洋平さん(27)  
奥さんと6月で1歳になるお子さんとの三人暮らし  
農業に魅せられ、生涯の仕事として  
いくことを決意した井上さんに熱  
い思いを聞きました。

#### 農業との出会い すべての始まり

年内の新規就農を目指し幕別町忠類地区で頑張っている東京都出身の井上さん。高校生のときに所属していた野球部の合宿で新潟県に行った際に、そこに広がる雄大な田園風景を見て「自分も米を作ってみよう」と

思ったのが全ての始まりだったそうです。大学受験の時期を迎え、米を作るためにはこの大学で何を学べばいいのかわからず、東京農業大学に進むことを選びました。井上さんの実家は、農業経営をしていた訳ではなく不安はありましたが、ご両親に相談したときに「自分のやりたいことをやりなさい。応援するから。」と聞いてくれたことが心からありがたいと思えたそうです。

#### 選んだ舞台は北海道

稲作農家をやりたいという気持ちはあったものの、これからの農業は稲作だけでは厳しいのではないかと考えていました。稲作と一緒に何ができるのかを探していたときに、道内の農業

人材派遣会社の存在に興味を持ち北海道に来ました。そして、働いていく中で「畑作も楽しい。」と思い始めた頃、豊頃町の会社から声をかけられ、本格的に農業生産に携わることになり幕別町忠類に来ることになりました。

#### ゆり根との出会い

現在は、幕別町忠類でゆり根栽培を主軸としている野坂幸市さんのもとで新規就農に向けた研修をしています。ここで「ゆり根」という作物と出会いました。生産に手間はかかるけどこの作物ならやっていけるのではと思い、忠類で新規就農を目指すことを決意。しかし、実家が農家でもない、経験も少ない、本当に農家としてやっていけるのか



りましたが、「とにかくゆり根を扱ってることが楽しい。このゆり根を基盤にしたい。」という思いが強くなっていきました。

白い物を作った時の「よし！やったぞ！」という達成感。そして初めて口にしたゆり根の味、何気ない日々の食事で「これはおいしい！」と思ったのがゆり根でした。これならみんな食べたほうがいいんじゃないか、こんなおいしいものがあるならもっと広めたいと思った。こんなにおいしいものをまだ知らない人がいる現状をある意味すごいことだと思いました。これだけ特産品として生産しているのに知らない人がいる

なんてとゆり根への思いを話してくれました。

#### 応援してくれる人たち

井上さんは、幕別町農業振興公社の農村アカデミーのフロンティア(新規就農者)コースの研修生で、奥さんとの出会いも自身農業男性を対象とした「農コン」で知り合ったそうです。結婚を決めたとき、まだ農家として独り立ちしていたわけではないけど、奥さんが「私が出会った人が農業をやりたいという人だったから応援するよ」と言ってくれたことも大きな原動力になりました。笑顔で話してく



井上さんに農業経営を指導している研修先の野坂幸市さんは、「まじめで率先して自分から取り組もうとする姿勢は立派だと感じる。自ら情報収集して勉強する姿は見てうれしいうれしい限りだ。人口減少が進む忠類地域で新規就農する若者を頼もしく感じるとともに、地域全体で支えていかなければならない。若い世代の農業者同士で仲間づくりをしていけば、うまくやっていけるのではないかと思っています。」と話していました。

#### 新規就農にかける思い

井上さんは、「これから本格的に畑探しから始めることになる。経営についての情報収集は常日頃からして

いるけど、自分が求めれば求めるほどいろいろな情報が入ってくるので、明確な経営スタイルは決めかねている。ゆり根を基盤として、高収益作物の長いも栽培もやってみよう。形の悪い野菜は受け入れてもらえないような今、農産物の流通の在り方も大切になってくる。そして、自分のように新規就農してくる人がいれば一緒に頑張って教えてあげることができるよう存在になりたい。いろいろな縁が自分をこの地に導いてくれた。自分でも不思議に思うことがあるんです。忠類で農業をやってみたとき、自然とここに骨を埋めようと思えたんです。今は大切な家庭もありますから。」と話していました。

また、「励ましや優しい言葉をかけてもらえることが何よりも自分にとって助けになっている。不安もあるけど、目標に向かって突き進んでいくことを決めた自分は、本当に多くの人に支えられ、助けられていることを実感します。」と話してくれた井上さん。温かな口調に秘めた力強い言葉が印象的でした。



1 笑顔が印象的な井上さん。  
2 取材に伺った日は、長いも畑で農作業中でした。  
3 どこまでも広がる北海道の大地が歓迎しているように見えます。  
4 井上さんの力強い理解者である研修先農家の野坂幸市さん。優しく、ときに厳しい言葉に重みを感じます。